

【安藤昌益研究の最前線（その13）】

安藤昌益の真営道医学を伝承した江戸の町医・
川村真斎による処方収集書『真斎聚方』における
「本草之部 附方」の処方群〔**【X】=No.210～333**〕は、
『本草綱目』の【附方】からの記載であることの考証、
および『真斎聚方』の全体的な構成について
——**【X-3】『真斎聚方』〔No.240～254〕**
〔『本草綱目』卷十五（草部）～卷十七・上（草部）〕
——さらに、真斎の「筆写・抄出方法」から
『真斎謾筆』と稿本『自然真営道』との
内容的同一性について考える

和田耕作

（KOSAKU WADA）

安藤昌益の真営道医学を継承した川村真斎（1785～1852）による処方収集書『真斎聚方』（内藤記念くすり博物館蔵本）は、浩瀚な著作である。

本稿では、本誌「PHN」35号に引き続いて、No.115以降の処方群と、それらに関連すると思われる『名家方選』三部作の処方群についての考証と考察を進める予定であったが、今回は、急遽予定を変更して、『真斎聚方』の「最終見出し」であるところの「本草之部 附方」〔No.210～333〕についての考証と考察を行うことにした。

「本草之部 附方」は、それまでの記述とは、大きく異なっており、その「出典」書目数も膨大であり、何による記載であるのか、これまで不明であった。それは、『真斎聚方』における「最後の難関」と思われた。

しかし、実際に調査をしてみると、この問題は、意外にもすぐさま解決したのである。すなわち、「本草之部 附方」は、『本草綱目』の【附方】などからの記載であることが、このたび明らかとなった。

『本草綱目』は、各薬物などを、

【釈名】【集解】【正誤】【修治】【気味】【主治】【発明】【附方】

の八項目にわけて記述している。

真斎は、最後の【附方】の処方群の中からを選んで記載していることが明らかになった。一部には、【発明】や【修治】の項目からも記載しているところもある。

『真斎聚方』「本草之部 附方」には、『本草綱目』の書名も、処方のある巻数や「薬物名」などの項目も記されていない。したがって、本稿では【附方】などのある『本草綱目』の巻数や分類項目、さらには「薬物名」などをも示して、『真斎聚方』「本草之部 附方」の内容構成が明確となるように記述することとした。

今回は、その第3回目であり、【X-3】『真斎聚方』〔No.240～254〕

まで、すなわち、『本草綱目』の巻十五〔草部〕～巻十七・上〔草部〕に相当する部分である。

◎・『真斎聚方』の全体的構成について・◎

このたび、「本草之部 附方」の「出典」が判明したことにより、『真斎聚方』の全体的な構成を、次のように把握することができるようになった。

▼【第一部】・・・『真斎聚方』・「第一編」▼

- ・『真斎聚方』〔No.1～36〕
- ・この巻頭部分は、『類聚方集覧』などからの記載によるものであり、おもに『真斎方記』へと増補されるところのものである。

〔『PHN』32号（2018年8月号）を参照〕

▼【第二部】・・・『真斎聚方』・「第二編」▼

- ・『真斎聚方』〔「A」＝No.37～115〕＋〔「B」＝No.116～209〕
- ・次は、各医書群と『名家方選』三部作からの処方群である。

〔「A」については、『PHN』33号（2018年9月号）～35号

（2018年11月号）を参照。〕

〔「B」については、今後、考証の予定であるが、その一部である安藤昌益と山脇東洋の処方群については、『PHN』30号（2018年4月号）・31号（2018年5月号）を参照のこと。〕

・この「第二編」については、考証をさらに進めた上で、その構成について再考する予定である。

▼〔第三部〕・・・『真斎聚方』・「第三編」▼

・『真斎聚方』〔「A」=No.210～254〕+〔「B」=No.254～333〕・

『真斎聚方』の「第三編」と言える「本草之部 附方」は、このたび『本草綱目』【附方】などからの記載であることが明らかになったのである。

・『真斎聚方』の「本草之部 附方」は、分量的には、『真斎聚方』の中の三分の一を超えており、上記の「第一編」と「第二編」を合わせて、仮に『真斎聚方』の「前編」とすれば、明らかに『真斎聚方』の「後編」と呼んでよいものである。

〔「A」については、『PHN』36号（2019年1月号）～『PHN』38号（2019年3月号）を参照のこと〕

〔「B」については、今後、考証の予定である。〕

●・【出典】の考証のための文献一覧・●

- ・『新註校定・国譯本草綱目』（第五冊）〔草部〕
（昭和49年10月、新註増補版、春陽堂書店刊）〔和田文庫蔵〕
〔以下、『国訳本草綱目』（第五冊）と略記する。〕
- ・〔明〕李時珍『本草綱目』（全二冊）
（1986年5月、商務印書館香港分館刊）〔和田文庫蔵〕
- ・『補註・本草綱目』（上巻、多紀安元遺稿、多紀鶴郎・永島忠共纂）
（大正四年十月、半田屋医籍商店刊）〔和田文庫蔵〕

.....

○ [金] ○ [『本草綱目』の薬物名]

【附方】 (No.210) [『真斎聚方』におけるNo.]

[1/5] [『本草綱目』の5処方の中の1処方を記載]

・「輕粉破口」 「外台」 [A] [外台秘要] [B]

[A] = 『真斎聚方』における略書名。

[B] = 『本草綱目』を参照したわかりやすい書名。

.....

・「▲」は、『真斎聚方』に出典が欠落しているもの。

・「——」は、『本草綱目』に出典の記載なきもの。

.....

◎・『真斎聚方』「本草之部 附方」の処方群の「出典」

である『本草綱目』【附方】との考証と考察・◎

.....

▼《I.》▼

▼『本草綱目』卷十五「草部」 「草之四」 (隲草類上) より▼

.....

○ [菊] ○ [『国訳本草綱目』 (第五冊、p.1)] .

【附方】 (No.240) [1/22]

・①「酒酔不醒」 「外台」 [外台秘要]

○ [野菊] ○ [『国訳本草綱目』 (第五冊、p.11)] .

【附方】 (No.240) [1/4]

・①「瘰癧未破」 「▲」 [瑞竹堂経験方]

○ [艾] ○ [『国訳本草綱目』 (第五冊、p.19)] .

【附方】 (No.240~241) [11/51]

・①「咽喉腫痛」 「医方大成」 [経験方]

・末尾の出典部分「李臣所伝方也」の記載なし。

・②「小兒臍風」 「簡便」 [簡便方]

・③「霍乱吐下」 「外台」 [外台秘要]

・④「面上𦵏● [黒の右に曾]」 「外台」

・⑤「婦人面瘡」 「談埜」 [談埜翁試験方]

・⑥「身面疣目」 「聖恵」 [聖恵方]

・⑦「白癩風瘡」・・・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

・⑧「疔瘡腫毒」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・末尾の小文字部分も、すべて原文のものである。

・⑨「癰背初起」・・・・・・・・・・「李絳」〔李絳兵部手集〕

・⑩「誤吞銅鐵」・・・・・・・・・・「篋中」〔篋中方〕

・⑪「諸虫蛇傷」・・・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

○〔青蒿〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.41）〕・

○○〔葉・茎・根・子〕・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.44）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.241）〔1／17〕

・①「毒蜂螫人」・・・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

○〔馬先蒿〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.57）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.241）〔1／1〕

・①「大風癩疾」・・・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

○〔莞蔚〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.62）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.241）〔6／21〕

・①「胎死腹中」・・・・・・・・・・「独行」〔韋宙独行方〕

・②「産後血暈」・・・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕

・③「産後血閉」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・④「小便尿血」・・・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

・⑤「聾耳出汁」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・⑥「粉刺黑斑〔斑〕」・・・・・・・・〔——〕

・「蘇頌曰」以下の文章を省略している。その前の文との内容的重複を含んだ長文のためであろう。

・ここに出典として「孫真人方」とあるのは誤り。これは、次の処方「馬咬成瘡」の出典である。

○〔夏枯草〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.79）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.241）〔3／7〕

・①「明目補肝」・・・・・・・・・・「簡要」〔簡要濟衆〕

・末尾に「予 因發明之説 加甘草」との、真斎の按文がある。

これは、【發明】の項の末尾近くにある「甘草」を加えた処方例を参照して、真斎が書き添えたものである。

・②「汗斑〔斑〕 白點」・・・・・・・・「乾坤」〔乾坤生意〕

・③「瘰癧馬刀」・・・・・・・・「薛〔薛〕 己」〔薛己外科經驗方〕

○〔番紅花〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.106）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.241）〔1／1〕

- ・①「傷寒發狂」・・・・「王璽」〔王璽医林集要〕
- 「大薊小薊」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.110）〕・
- 【附方】・・・・（No.241）〔1／14〕
- ・①「癰瘡作痒」・・・・「千金」〔千金方〕
- 「統断」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.115）〕・
- 【附方】・・・・（No.241）〔2／4〕
- ・①「小便淋瀝」・・・・「録驗」〔古今録驗〕
- ・②「打撲傷損」・・・・「易簡」〔易簡方〕
- 「漏蘆」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.121）〕・
- 【附方】・・・・（No.242）〔1／8〕
- ・①「白禿頭瘡」・・・・「総録」〔聖濟総録〕
- 「苧麻」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.133）〕・
- 「根」・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.135）〕・
- 【附方】・・・・（No.242）〔2／11〕
- ・①「肛門腫痛」・・・・「集簡」〔集簡方〕
- ・②「脱肛不收」・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- 「大青」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.140）〕・
- 【附方】・・・・（No.242）〔4／5〕
- ・①「喉風喉痺」・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・②「小兒口瘡」・・・・「千金」〔千金方〕
- ・③「熱病下痢」・・・・「肘後」〔肘後方〕
- ・④「肚皮青黑」・・・・「保幼」〔保幼大全方〕
- 「胡蘆巴」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.144）〕・
- 【附方】・・・・（No.242）〔1／6〕
- ・①「陰癰腫痛」・・・・「——」
- 「惡實」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.154）〕・
- 「根莖」・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.159）〕・
- 【附方】・・・・（No.242）〔1／21〕
- ・①「頭風白屑」・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- 「菥耳」○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.163）〕・
- 「実」・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.165）〕・
- 【附方】・・・・（No.242）〔7／21〕
- ・①「久瘡不瘡」・・・・「朱氏」〔朱氏集驗方〕
- ・②「大腹水腫」・・・・「千金」〔千金方〕
- ・③「風湿攣痺」・・・・「食医」〔食医心鏡〕
- ・④「牙齒痛腫」・・・・「千金翼」〔孫真人千金翼〕

- ・⑤「鼻淵流涕」・・・「證治」〔證治要訣〕
- ・⑥「眼目昏暗」・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・⑦「嗜酒不已」・・・「陳藏本草」〔陳藏器本草〕
- 〔莖葉〕・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.166）〕・

【附方】・・・（No.242～243）〔11／28〕

- ・①「毒蛇溪毒」・・・「勝金」〔勝金方〕
- ・②「疫病不染」・・・「▲」〔千金方〕
- ・③「風瘙癰疹」・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・④「面上黒斑」・・・「摘玄」〔摘玄方〕
- ・⑤「赤白汗斑」・・・「摘玄」
- ・⑥「大風痼疾」・・・「乾坤生意」

・「又方」以下の文も、原文のものである。

- ・⑦「反花惡瘡」・・・「聖濟」〔聖濟総録〕
- ・⑧「一切丁腫」・・・「養生方」「邵真人方」
- ・⑨「纏喉風病」・・・「聖濟」〔聖濟総録〕
- ・⑩「誤吞銅錢」・・・「肘後」〔肘后方〕
- ・⑪「花蜘蛛毒」・・・「摘玄」〔摘玄方〕

○〔天名精〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.173）〕・

○○〔葉〕・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.178）〕・

【附方】・・・（No.243）〔1／11〕

【附方】・・・（No.243）〔1／11〕

- ・①「惡蛇咬傷」・・・「易簡」〔易簡方〕

・末尾の「天名精「釈名」地菰也」との、真斎の文がある。

これは、「天名精」の【釈名】の項に、「地菰」とあることを
注解しているものである。

○○〔鶴虱〕〔天名精の実〕・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.181）〕・

【附方】・・・（No.243）〔1／1〕

- ・①「大腸虫出」・・・「怪疾」〔怪疾奇方〕

○〔豨薟〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.182）〕・

【附方】・・・（No.243）〔2／5〕

- ・①「丁瘡毒腫」・・・「集簡」〔集簡方〕
- ・②「反胃吐食」・・・「百一」〔百一選方〕

○〔簕〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.190）〕・

【附方】・・・（No.243）〔1／12〕

- ・①「吹奶乳癰」・・・「濟急」〔濟急仙方〕

○〔蘆〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.193）〕・

〇〇〔根〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.196）〕・

【附方】・・・・・・（No.244）〔3／12〕

- ・①「骨蒸肺萎」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・②「五噎吐逆」・・・・・・「玉函」〔金匱玉函方〕
- ・③「鰕鱖魚食〔毒〕」・・・・・・「千金」〔千金方〕

〇〇〔莖葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.197）〕・

【附方】・・・・・・（No.244）〔1／6〕

- ・①「小兒禿瘡」・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕

〇〔藁荷〕〇・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.206）〕・

【附方】・・・・・・（No.244）〔5／9〕

- ・①「卒中虫毒」・・・・・・「梅師」〔梅師方〕
- ・②「喉中似物」・・・・・・「梅師」
- ・③「月信洪滯」・・・・・・「經驗」〔經驗方〕
- ・④「雜物入目」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ・⑤「風冷失声」・・・・・・「肘後」〔肘后方〕

・『本草綱目』では、⑤、④の順番である。

〇〔木賊〕〇・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.224）〕・

▲〔・この項の前にある「麻黄」の項の【附方】からの記載がないのは、「麻黄」という薬物の重要性からみると不思議である。〕▲

【附方】・・・・・・（No.244～245）〔9／12〕

- ・①「目昏多淚」・・・・・・「——」
- ・②「舌硬出血」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「血痢不止」・・・・・・「聖恵」
- ・④「瀉血不止」・・・・・・「廣利」〔廣利方〕
- ・⑤「腸痔下血」・・・・・・「図経」〔蘇頌図経本草〕
- ・⑥「大腸脱肛」・・・・・・「三因」〔三因方〕
- ・⑦「婦人血崩」・・・・・・「医壘」〔医壘元戎〕
- ・⑧「月水不斷」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑨「誤吞銅錢」・・・・・・「聖恵」

〇〔燈心草〕〇・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.231）〕・

【附方】・・・・・・（No.245）〔3／10〕

- ・①「喉風痺塞」・・・・・・「——」

・『本草綱目』の解説では、「瑞竹堂方・・・」「一方〔A〕・・・」

「一方〔B〕・・・」「恵濟方・・・」とあるが、真斎の文は、

「一方〔A〕・・・」からはじまり、末尾の「一錢吹之」の部分が

「瑞竹堂方・・・」の末尾の「一捻数次立愈」に置きかわって

る。おそらく、真斎の転記ミスと思われる。また、「恵濟方・・・」

などの、その他の文は省略されている。

・②「夜不合眼」・・・・・・「▲」〔集簡方〕

・③「通利水道」・・・・・・「韓氏医通」

●【考察1】●

いくつかの省略や記載ミスもみられるが、真斎の記載方法は基本的にこれまでと同様であるといえよう。

▼《Ⅱ.》▼

▼『本草綱目』卷十六「草部」・・・・「草之五」（隰草類下）より▼

○〔地黄〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.235）〕・

【附方】・・・・（No.245～246）〔12／64〕

・①「骨蒸勞熱」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

・②「初生便血」・・・・・・「全幼」〔全幼心鑑〕

・③「産後血病〔痛〕」・・・・・・「良方」〔婦人良方〕

・④「血熱生癰」・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑤「一切癰疽」・・・・・・「博濟」〔王袞博濟方〕

・⑥「打撲損傷」・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑦「物傷睛突」・・・・・・「聖濟」〔聖濟總録〕

・⑧「牙齒挺長」・・・・・・「備急」〔張文仲備急方〕

・⑨「牙動欲脱」・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑩「耳中常鳴」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

・⑪「鬚髮黃赤」・・・・・・「本事」〔本事方〕

・⑫「毒箭入肉」・・・・・・「千金」〔千金方〕

○〔牛膝〕○・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.258）〕・

○○〔根〕・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.260）〕・

【附方】・・・・（No.246）〔10／21〕

・①「婦人血塊」・・・・・・「図經」〔図經本草〕

・②「生胎欲去」・・・・・・「良方」〔婦人良方〕

・③「胞衣不下」・・・・・・「延年」〔延年方〕

・④「産後尿血」・・・・・・「熊氏補遺」

・⑤「口舌瘡爛」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

・⑥「天〔牙〕齒疼痛」・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑦「折傷閃肭」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

- ・⑧「金瘡作痛」・・・・・・・・・・「梅師」〔梅師方〕
- ・⑨「卒得惡瘡」・・・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・⑩「風癢癰疹」・・・・・・・・・・「千金」
- ○〔莖葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.265）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.246）〔2／4〕
- ・①「氣湿痺痛」・・・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・②「眼生珠管」・・・・・・・・・・「聖恵」
- 〔紫菀〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.266）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.246）〔1／7〕
- ・①「纏喉風痺」・・・・・・・・・・「▲」〔斗門方〕
- 〔麦門冬〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.272）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.246～247）〔7／12〕
- ・①「吐血衄血」・・・・・・・・・・「心統」〔活人心統〕
- ・②「衄血不止」・・・・・・・・・・「保命」〔保命集〕
- ・③「齒縫出血」・・・・・・・・・・「宝鑑」〔蘭室宝鑑〕
- ・④「咽喉生瘡」・・・・・・・・・・「▲」〔普濟方〕
- ・⑤「乳汁不下」・・・・・・・・・・「熊氏」〔熊氏補遺〕
- ・⑥「金石藥癢」・・・・・・・・・・「図經」〔図經本草〕
- ・⑦「男女血虛」・・・・・・・・・・「摘要」〔医方摘要〕
- 〔鴨跖草〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.285）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.247）〔4／4〕
- ・①「小便不通」・・・・・・・・・・「集簡」〔集簡方〕
- ・②「下痢赤白」・・・・・・・・・・「全書」〔活幼全書〕
- ・③「喉痺腫痛」・・・・・・・・・・「▲」〔袖珍方〕
- ・④「五痔腫痛」・・・・・・・・・・「得效」〔得效方〕
- 〔葵〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.287）〕・
- ○〔苗〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.289）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.247）〔3／4〕
- ・①「肉錐怪疾」・・・・・・・・・・「奇疾」〔夏子益奇疾方〕
- ・②「湯火傷瘡」・・・・・・・・・・「食物」〔食物本草〕
- ・③「誤吞銅錢」・・・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- ○〔根〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.292）〕・
- 【附方】・・・・・・（No.247）〔4／12〕
- ・①「消中尿多」・・・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・②「癰疽惡毒」・・・・・・・・・・「集驗」〔姚僧坦集驗方〕
- ・③「口吻生瘡」・・・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕

・④「蛇虺螫傷」・・・・・・・・「▲」〔古今録驗〕

〇〇〔冬葵子〕・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.293）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.247）〔7／20〕

・①「小便血淋」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・②「妊娠水腫」・・・・・・・・「金遺〔匱〕」〔金匱要略〕

・③「倒生口瘡」・・・・・・・・「産宝」〔咎殷産宝〕

・④「胎死腹中」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・⑤「胞衣不下」・・・・・・・・「千金」

・⑥「面上皰瘡」・・・・・・・・「陶隱」〔陶隱居方〕

・⑦「解蜀椒毒」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

【發明】・・・・・・・・（No.247）

⑦「解蜀椒毒」の次にある「婦人良方云・・・」の文章は、【發明】
の項からの記載である。

〇〔蜀葵〕〇・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.296）〕・

〇〇〔根莖〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.299）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.248）〔2／7〕

・①「小兒吻瘡」・・・・・・・・「▲」〔聖恵方〕

・末尾に「蜀葵根也下同」との、真斎の文がある。

・②「小兒口瘡」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

〇〇〔呉葵華〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.300）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.248）〔5／7〕

・①「横生倒産」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・②「酒皴赤鼻」・・・・・・・・「仁存」〔仁存方〕

・③「誤吞鍼錢」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

・④「蜂蠍螫毒」・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

・⑤「二便閉格」・・・・・・・・「——」

・『本草綱目』では、⑤が最初に出ている。

〇〇〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.301）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.248）〔3／3〕

・①「大小便閉」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕

・②「石淋破血」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

・③「癰腫無頭」・・・・・・・・「経験」〔経験後方〕

〇〔黄蜀葵〕〇・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.304）〕・

〇〇〔花〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.306）〕・

【附方】・・・・・・・・（No.248）〔3／8〕

・①「難産催生」・・・・・・・・「▲」〔産宝鑑〕

- ・②「小児口瘡」・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
- ・③「小児禿瘡」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- 〔子・根〕・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.307）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.248）〔1／4〕
- ・①「臨産催生」・・・・・・・・「經驗方」
- 〔龍葵〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.308）〕・
- 〔莖葉根〕・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.311）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.248）〔3／12〕
- ・①「從高墜下」・・・・・・・・「經驗」〔唐瑤經驗方〕
- ・②「天泡濕瘡」・・・・・・・・「——」
- ・③「辟除蚤虱」・・・・・・・・「——」
- ・「博 以此方考 一方・・・」との真斎の処方が記されている。
- 〔敗醬〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.323）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.249）〔1／5〕
- ・①「産後腹痛」・・・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- 〔欬冬花〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.327）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.249）〔1／2〕
- ・①「痰嗽帶血」・・・・・・・・「濟生」〔濟生方〕
- 〔決明〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.335）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.249）〔2／8〕
- ・①「積年失明」・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・②「青盲雀目」・・・・・・・・「普濟」〔普濟方〕
- 〔地膚〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.341）〕・
- 〔子〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.343）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.249）〔3／10〕
- ・①「疝氣危急」・・・・・・・・「簡便」〔簡便方〕
- ・②「妊娠患淋」・・・・・・・・「子母」〔子母秘録〕
- ・③「肢体疣目」・・・・・・・・「壽域」〔壽域神方〕
- 〔瞿麥〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.346）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.249）〔3／11〕
- ・①「子死腹中」・・・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・②「咽喉骨硬」・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・③「竹木肉入」・・・・・・・・「梅師」〔梅師方〕
- 〔葶藶〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.359）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.249）〔1／20〕
- ・①「白禿頭瘡」・・・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○〔車前〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.368）〕・

○○〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.370）〕・

【附方】・・・・・・（No.249）〔7／12〕

- ・①「石淋作痛」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
- ・②「滑胎易産」・・・・・・「▲」〔婦人良方〕
- ・③「陰冷悶疼」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・④「陰下痒痛」・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・⑤「久患内障」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑥「補虚明目」・・・・・・「局方」〔和剂局方〕
- ・⑦「風熱目暗」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕

○○〔草・根〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.373）〕・

【附方】・・・・・・（No.249～250）〔3／11〕

- ・①「小便不通」・・・・・・「百一」〔百一方〕
- ・②「熱痢不止」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「目赤作痛」・・・・・・「聖濟」〔聖濟総録〕

・末尾にある「小兒目痛」という小文字の文も原文のものである。

○〔馬鞭草〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.376）〕・

○○〔苗葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.373）〕・

【附方】・・・・・・（No.250）〔3／15〕

- ・①「鼓脹煩渴」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕
- ・②「婦人經閉」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「白癩風瘡」・・・・・・「聖恵」

○〔女青〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.384）〕・

【附方】・・・・・・（No.250）〔1／3〕

- ・①「辟穢瘟疫」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕

・末尾にある「此女青別録曰・・・・」の文は、【集解】の項の「【別録曰】女青・・・」により、真斎が書いたものである。

○〔鱧腸〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.392）〕・

【附方】・・・・・・（No.250）〔2／10〕

- ・①「烏髮固齒」・・・・・・「——」

・ここでは、始めの「摂生妙用方・・・」の文を省略し、中ほどの「又法・・・」の文のみを記載している。その後の「奉親養老書・・・」の文も省略している。長文のためであろうか。

- ・②「風牙疼痛」・・・・・・「集玄」〔集玄方〕

○〔連翹〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.397）〕・

○○〔莖葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.400）〕・

【附方】・・・・・・（No.250）〔2／3〕

- ・①「瘰癧結核」・・・・・・「簡便」〔簡便方〕
- ・②「頂辺馬刀」・・・・・・「活法」〔活法機要〕

○〔蒴藋〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.405）〕・

【附方】・・・・・・（No.250）〔3／19〕

- ・①「癰腫惡肉」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・②「手足疣目」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・③「熊羆傷人」・・・・・・「備急」〔張文仲備急方〕

○〔藍〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.410）〕・

【附方】・・・・・・（No.250～251）〔6／17〕

- ・①「服藥過劑」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
- ・②「卒自縊死」・・・・・・「千金」〔千金方〕
- ・③「唇辺生瘡」・・・・・・「千金」
- ・④「齒腫痛」・・・・・・「聖恵」〔聖恵方〕
- ・⑤「白頭禿瘡」・・・・・・「聖濟」〔聖濟録〕
- ・⑥「天泡熱瘡」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

○〔藍澱〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.418）〕・

【附方】・・・・・・（No.251）〔1／4〕

- ・①「誤吞水蛭」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

○〔青黛〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.420）〕・

【附方】・・・・・・（No.251）〔5／13〕

- ・①「小兒驚癇」・・・・・・「生々」〔生生編〕
- ・②「小兒夜啼」・・・・・・「生々」
- ・③「産後癡狂」・・・・・・「摘玄」〔摘玄〔方〕〕
- ・④「瘰癧未穿」・・・・・・「簡便」〔簡便方〕
- ・⑤「諸毒虫傷」・・・・・・「録驗」〔古今録驗〕

○〔蓼〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.425）〕・

○○〔実〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.428）〕・

【附方】・・・・・・（No.251）〔4／4〕

- ・①「傷寒勞復」・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
- ・②「霍乱煩渴」・・・・・・「聖恵」〔聖恵〔方〕〕
- ・③「小兒頭瘡」・・・・・・「藥性」〔藥性論〕
- ・④「蝸牛咬毒」・・・・・・「藏器」〔陳藏器本草〕

○○〔苗葉〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.429）〕・

【附方】・・・・・・（No.251）〔4／7〕

- ・①「蓼汁酒」・・・・・・「千金」〔千金方〕

- ・②「夏月喝死」・・・・・・・・「外台」〔外台〔秘要〕〕
- ・③「血氣攻心」・・・・・・・・「斗門」〔斗門〔方〕〕
- ・④「惡犬咬傷」・・・・・・・・「肘後」〔肘後〔方〕〕
- 〔葶草〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.432）〕・
- 〔花〕・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.435）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.251）〔2／3〕
- ・①「心氣●〔疔のなかに「丐」〕痛」・・・
- ・・・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕
- ・②「腹中痞積」・・・・・・・・「保寿」〔保寿堂方〕
- 〔虎杖〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.441）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.251）〔3／6〕
- ・①「心氣●〔疔のなかに「丐」〕痛」・・・
- ・・・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕
- ・②「腹中痞積」・・・・・・・・「保寿」〔保寿堂方〕
- 〔虎杖〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.441）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.251）〔3／6〕
- ・①「小便五淋」・・・・・・・・「集驗」〔集驗方〕
- ・②「月水不利」・・・・・・・・「▲」〔聖恵方〕
- ・「又方・・・」以下の文を省略している。長文のためであろう。
- ・③「時疫流毒」・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
- 〔篇蓄〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.449）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.251～252）〔2／9〕
- ・①「痔発腫痛」・・・・・・・・「藥性」〔藥性論〕
- ・②「惡瘡癰痒」・・・・・・・・「肘後」〔肘後方〕
- 〔蒺●〔莉の下に木〕〕○・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.453）〕・
- 〔白蒺●〔莉の下に木〕〕・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.457）〕・
- 【附方】・・・・・・・・（No.252）〔8／17〕
- ・①「催生下衣」・・・・・・・・「梅師」〔梅師方〕
- ・②「虻虫心痛」・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- ・③「三十年失明」・・・・・・・・「外台」
- ・④「牙齒出血」・・・・・・・・「道藏經」
- ・⑤「打動牙疼」・・・・・・・・「瑞竹」〔瑞竹堂方〕
- ・⑥「面上癰痕」・・・・・・・・「救急」〔救急方〕
- ・⑦「白癰風疾」・・・・・・・・「孫真」〔孫真人食忌〕
- ・⑧「一切丁腫」・・・・・・・・「外台」〔外台秘要〕
- 〔殺精草〕○・・・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.460）〕・

【附方】・・・・・・（No.252）〔3／8〕

・①「偏正頭痛」・・・・・・「集驗方」〔聖恵〔濟〕方〕

・②「目中翳膜」・・・・・・「▲」〔明目方〕

・③「小兒中暑」・・・・・・「保幼」〔保幼大全〕

○〔海金沙〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.463）〕・

【附方】・・・・・・（No.252）〔2／6〕

・①「膏淋如油」・・・・・・「仁存」〔仁存方〕

・②「痘瘡變黑」・・・・・・「直指」〔直指方〕

○〔紫花地丁〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.469）〕・

【附方】・・・・・・（No.252）〔1／8〕

・①「一切惡瘡」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

●【考察2】●

ここでもいくつかのところでの省略などがみられる。しかし、真斎の按文なども適切なものであり、十分な思案によるものである。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

▼《Ⅲ．》▼

▼『本草綱目』卷十七・上「草部」・・・「草之六」（毒草類）より▼

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

○〔大黃〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.477）〕・

【附方】・・・・・・（No.252）〔4／51〕

・①「打撲傷痕」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

・②「金瘡煩痛」・・・・・・「千金」〔千金方〕

・③「凍瘡破爛」・・・・・・「宝鑑」〔衛生宝鑑〕

・④「湯火傷灼」・・・・・・「夷堅」〔洪邁夷堅志〕

○〔商陸〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.496）〕・

【附方】・・・・・・（No.252）〔1／15〕

・①「耳卒熱腫」・・・・・・「聖濟」〔聖濟録〕

○〔澤漆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.527）〕・

【附方】・・・・・・（No.253）〔1／8〕

・①「癰瘡有虫」・・・・・・「易簡」〔易簡方〕

○〔甘遂〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.531）〕・

【附方】・・・・・・（No.253）〔1／22〕

・①「耳卒聾閉」・・・・・・「永類」〔永類方〕

○〔続随子〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.538）〕・

【附方】・・・・・・（No.253）〔1／6〕

・①「黒子疣贅」・・・・・・「普濟」〔普濟方〕

○〔蓖麻〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.554）〕・

○○〔子〕・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.456）〕・

【附方】・・・・・・（No.253）〔10／38〕

・①「口目喎斜」・・・・・・「——」

・最初の文のみを記載し、「婦人良方・・」「一方・・」の二つの文は省略している。処方为主要文としては、最初の文のみで十分なのであろう。

・②「舌脹塞口」・・・・・・「経験」〔経験良方〕

・③「催生下胞」・・・・・・「海上集験方」「肘后方」

・④「急喉痺塞」・・・・・・「——」

・『本草綱目』では、④が③の前にある。

・⑤「盤脹生産」・・・・・・「▲」〔摘玄方〕

・「塗頂、方同上」とあるが、この前の処方の出典は「摘玄」である。

・⑥「催生下胎」・・・・・・「集簡」〔集簡方〕

・⑦「一切毒腫」・・・・・・「肘後」〔肘后方〕

・⑧「癘風鼻塌」・・・・・・「杜壬」〔杜壬方〕

・⑨「髮黄不黒」・・・・・・「摘玄」〔摘玄方〕

・⑩「湯火灼傷」・・・・・・「古今」〔古今録験〕

○〔藜蘆〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.578）〕・

【附方】・・・・・・（No.254）〔2／18〕

・①「頭生蟻虱」・・・・・・「直指」〔直指方〕

・②「頭風白屑」・・・・・・「本事」〔本事方〕

○〔附子〕○・・・・・・〔『国訳本草綱目』（第五冊、p.586）〕・

【附方】・・・・・・（No.254）〔4／113〕

・①「十指疼痛」・・・・・・「簡易」〔簡易方〕

・②「鼻淵腦泄」・・・・・・「普濟」〔普濟〔方〕〕

・③「耳鳴不止」・・・・・・「産乳」〔楊氏産乳〕

・④「久生疥癬」・・・・・・「聖恵」〔聖恵〔方〕〕

●【考察3】●

ここでも一部の省略や転記のミスなどがみられるが、真斎の記載方法に特に変化はないといえよう。

◎・むすび・◎

このたび、『真斎聚方』「本草之部 附方」の各処方が、『本草綱目』の各薬物の【附方】からの記載であることが判明したことにより、『真斎聚方』の全体的構成が、ここに初めて明らかになった。

そして、すでに述べたように、真斎は、『真斎聚方』「本草之部 附方」の各処方を、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から、基本的に「原文」そのままの内容で記載している。

それは、これまでの真斎の「筆写・抄出方法」を踏襲しているものである、と言えるであろう。

各処方の抄出については、真斎の臨床家としての必要性から選ばれたものと思われる。

『真斎聚方』「本草之部 附方」もまた、『本草綱目』の各薬物の【附方】の項から臨床的に参考となる処方群を抄出して、臨床研究に役立てるとということが目標であった。その「按文」の一つひとつの内容が、それを物語っている。

いずれにしても、『本草綱目』の各薬物の【附方】を、これほど多く記載した真斎の研究態度には、感服せざるを得ない。

以上は、「第1回目の考証」における「むすび」であり、私はこの時点で『真斎聚方』「本草之部 附方」の全体的な評価を急ぐ必要はないと思う。その全体的な評価は、今後、さらなる「考証と考察」を進めてからでも十分であろう。

上記の「むすび」については、今回の「第3回目の考証」においても基本的に変わりはないと言えるであろう。

真斎が記載している処方群には、同名の処方も少なくない。このような処方記載の傾向を探ることは、真斎の医学的な関心を見る上にも大切なことである。

[2019年3月25日、PHN（思想・人間・自然）、第38号、PHNの会発行]

[2019年3月25日、和田耕作（C）、無断転載厳禁]
